

まちづくり調査特別委員会会議録

1 開会日時 令和6年2月8日(木) 午前10時0分

2 閉会日時 令和6年2月8日(木) 午前10時54分

3 会議場所 熊山支所大会議室

4 出席委員

1 番	牛尾 直人君	2 番	鼻岡 美保君	3 番	安藤 利博君
4 番	永徳 省二君	5 番	大森 進次君	6 番	光成 良充君
7 番	保田 守君	8 番	大口 浩志君	9 番	治徳 義明君
10 番	原田 素代君	11 番	金谷 文則君	12 番	松田 勲君
13 番	福木 京子君	14 番	佐藤 武文君	15 番	下山 哲司君
16 番	実盛 祥五君	17 番	佐藤 武君		

5 欠席委員

なし

6 説明のために出席した者

総合政策部長	倉本 貴博君	総務部長	戸川 邦彦君
財務部長	杉原 洋二君	産業振興部長	是松 誠君
建設事業部長	高橋 渉君	赤坂支所長	小坂 憲広君
熊山支所長	稲生真由美君	吉井支所長	中務 浩行君
総合政策部参与兼 建設事業部参与	岡本 和典君	政策推進課長	山崎 和枝君
地域整備推進室長	森本 祐司君	政策推進課主査兼 地域整備推進室主査	池田 純君

7 事務局職員出席者

議会事務局長	土井 常男君	副参事	野田 順子君
主幹	岡野 哲浩君	主任	平尾 和也君

8 協議事項 1) 赤磐市道の駅に関わるニーズ調査について

2) 次期赤磐市総合計画の策定について

3) その他

午前10時0分 開会

○委員長（金谷文則君） ただいまからまちづくり調査特別委員会を開会いたします。

換気のため、会議室の出入口については開けたままで進めさせていただきますので、御協力のほどよろしく願いいたします。

なお、松田委員より遅参の申出がありましたので御報告申し上げます。

それでは、協議事項に入ります。

協議事項1番目、赤磐市道の駅に関わるニーズ調査について、執行部から説明をお願いいたします。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本総合政策部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） それでは、赤磐市道の駅に関わるニーズ調査についての資料をお開きください。

ニーズ調査につきましてほぼ9割方取りまとめが終わりましたので、速報という形で情報提供、御報告をさせていただきたいと思えます。

まず1ページ目からでございます。

こちらは、市内の主な観光施設、農産物の直売所等の街頭で出口調査のような形での調査を行ったものです。866人から聞き取りを行っております。

2ページ目をお願いします。

傾向としまして、道の駅に必要な施設、機能としましては、農産物直売施設、レストラン・カフェあたりの要望が高い。必要なサービスとしては、購入したものを贈答品として市外に郵送できるサービスが欲しいという意見が多くありました。コンセプトとしては、果物、農産物などの市が誇る特産物が集まる市をPRする場所というコンセプトの意向が高かったという傾向が出ております。

3ページ目をお願いします。

こちらは、外部の利用者、赤磐市外の方を対象に、インターネットを活用しましてアンケート調査を実施しております。1,000人からアンケートを聴取しております。

4ページ目をお願いします。

こちらでも道の駅に必要な施設、機能としまして、農産物直売施設、レストラン・カフェの要望が高い傾向が出ております。必要なサービスとしましては、贈答品として市外に郵送できるサービス、次に観光案内や観光に関する体験予約などができる観光拠点機能ということで、市外の方ならではの御意見が出ております。コンセプトとしては、特産物が集まる、市をPRする場所という意見がたくさんありました。

5ページ目をお願いします。

次に、市民アンケート調査、これは無作為に抽出した赤磐市民1,000人を対象に郵送でアン

ケートをさせていただいております。1月15日までの集計となっております。これは1月末までを期限としておりましたので、この後少し票数は増えてくると思いますが、おおむねの傾向は出ているのではないかと考えております。

5ページ目の居住地というのが、回答のあった方のそれぞれの住まいの地域でございますが、いわゆる住民の世帯数の割合とほぼ同じ割合で返却されておりますので、地域に偏った意見が来ているということではなく、割合に応じた意見の回答があったと見ております。

6ページ目をお願いします。

道の駅への来訪意向、できたらどのぐらい利用されますかということに對しましては、2～3日に1回、1週間に1回、1か月に1回という御回答が多く占めておりますので、できれば利用したいという意向は持たれていると解している状況です。必要な機能として、レストラン・カフェ、農産物直売施設。必要なサービスとして、贈答品として市外に郵送できる機能、ここまでは、前2つの意見と同様の傾向ではありますが、ここの特徴としては、2番目、3番目にコミュニティバス等により自宅から店舗まで送迎をしてくれる機能でありますとか、地域の行事や地域交流イベントなどが企画・実施できるイベント交流機能という意見が増えております。

7ページ目をお願いします。

こちらは市民アンケート調査ですが、広報でアンケートを募集したものでございます。23人の方から回答。こちらはまだ途中ということで、1月15日時点の結果でございますので、若干票数が増えてくると思われま。

8ページ目をお願いします。

こちらでも道の駅に必要なサービスとして、コミュニティバス等により自宅から店舗まで送迎をしてくれる機能という要望が高い傾向が出ています。コンセプトとして、災害安全性が高く、地域の避難場所となるなどの防災の安全性を高める場所という意見が多く見られております。

9ページ目をお願いします。

こちらへは自由意見の中から数多く出てきたキーワードをそちらに列挙しております。また、自由意見も抜粋にはなりますが、特徴のあるものをそちらへ抜き出してあります。

10ページ目からは、先ほどの統計を年代別に分けたものになります。

施設利用者のニーズ調査として、年代別の傾向でいいますと、11ページの10代、20代、30代、40代、比較的若い世代の傾向とすれば、地域の行事や地域交流イベントなどが企画・実施できるイベント交流機能という意見がたくさん見られております。それに対して、60代、70代、80代になりますと、コミュニティバス等により自宅から店舗まで送迎をしてくれるサービスという要望が高いという傾向が出ております。

13ページからは、外部、赤磐市外の方へのアンケート調査の傾向でございますが、先ほどと

説明が重なりますが、購入した農産物などを贈答品として市外に郵送できるサービス、観光案内や観光に関する体験予約などができる観光拠点機能が強く求められている傾向が出ております。

16ページからが無作為抽出の1,000人を対象としたアンケート調査の結果でございますが、17ページです。

こちら先ほどと傾向が似てまいります、年代別で20代、30代、40代では、地域の行事や地域交流イベントなどが企画・実施できるイベント交流機能が高い傾向になっておりますが、60代、70代、80代になりますと、コミュニティバス等により自宅から店舗まで送迎をしてくれる機能が求められる傾向が高くなっております。

19ページを御覧ください。

アンケートの結果につきましては今御報告させていただいたとおりですが、先般当委員会におきまして、若い世代の意見、中高生の意見を聞いたかどうかということで御意見をいただきました。これを受けまして市内の中学校へ御相談させていただいたところ、各校の校長先生はかなり乗り気で前向きに検討していただきまして、ぜひ近隣の高校生とも一緒にやりたいんだということで、中高生合同によりますワークショップを今週2月10日土曜日、10時から12時までですが、計画させていただいております。市内の中学校5校と瀬戸高校、和気閑谷高校の2校、計7校に参加していただくことになりました。瀬戸南高校は残念ながらこの当日、どうしても日程の調整がつかないということで、瀬戸南高校につきましては別途2月1日に単独でのワークショップを開催させていただきました。また、瀬戸高等支援学校へも御相談させていただきまして、先生方かなり前向きに調整をしていただきまして、瀬戸高等支援学校につきましては、学校内でアンケートの取りまとめをして提言としてお出ししますというお返事をいただいております。2月10日につきましては、この7校によりますワークショップを計画しておりますが、こちら各校5名程度とお願いをしておるところですが、5名を超えてという学校が大変多く47名の参加が今のところ予定されております。議員にも、ぜひこのワークショップの様子を見ていただきたいところではありますが、全員が来ていただきますと中高生ですのでなかなか萎縮してもいけませんので、御相談させていただきまして、議長、副議長、それから当委員会の委員長、副委員長に御案内をさせていただきまして、時間の許す限りということではございますが、見学をお願いしているところでございます。

次に、20ページを御覧ください。

こちらは、従前、当委員会でもお出しした資料と同じものになります。公共ゾーンのイメージ図でございます。

中身につきましては、今アンケート調査を行っておるところでございますので、あくまでイメージということで見ていただけたらと思っておりますが、今回、県道に面した道の駅ということでございますので、青枠に囲っております駐車場の一部、それから情報発信施設、観光案内施

設、トイレ、休憩施設、こちらにつきましては岡山県が負担をしてくださるということで調整ができておりますので、近く基本協定を岡山県と赤磐市で結ばせていただきたいと考えております。この青枠で囲われた部分、これは県の負担だということでお示しをさせていただいております。基本協定の詳細な内容につきましては、これから事務的に細かい調整をさせていただきますが、近く協定を結ばせていただくということで、御報告とさせていただきます。

私からは以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして質疑がございましたらお願いをいたします。

原田委員。

○委員（原田素代君） 何か所かちょっと確認をさせていただきたいんですけど、ちょっと印象的だったのがアンケートの対象者。例えば5ページのところに地区別が出てますが、居住地が、やはり熊山、山陽の方が圧倒的に多くて、吉井と赤坂はもう想定内の数字だと思いますが、先ほどの御説明の中に、実施方法が割合に応じているからこれは当然の結果だというようなニュアンスにも聞こえたんですけど、これはあくまで無作為に抽出した市内在住の18歳以上なわけですから、結果がやっぱり特徴的に山陽、熊山の地域に偏っていると理解したほうがいいんじゃないかなと思ったんですけど、そうじゃないんですか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本総合政策部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 無作為抽出の1,000人でございますが、地域別に偏ってはいけませんので、旧町単位で世帯の割合に応じた抽出をさせていただいております。送ったところ、返答についてはおおむね同じぐらいの割合で回答があったということでございますので、ここにお示しさせていただいてる割合というのがおおむねですけれども、世帯の割合、赤磐市に占める山陽地域の割合と同じように回答の結果として割合が返ってきたと説明をさせていただいたところです。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 要するに、人口比に対する抽出だから、当然人口比の結果がこういう形になるということですか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本総合政策部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 御理解のとおりです。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 常々懸念しておりますが、赤磐市内全域のまちづくり構想という大きな立ち位置から考えて、今回のこの計画がやっぱり山陽、熊山にどうしても偏ります。こういう結果があるということを、やっぱりボリュームに応じたからそうなんだと御理解いただくのは、私はあまり実情に沿ってないのではないかということをお大変危惧しているということを確認したいと思います。

それから、併せてですけど、7ページの広報のアンケートですとか、いろいろな切り口でアンケート調査をしていただいているのはいいんですけど、大変回収状況が悪い。例えば7ページなどは23票。どうなんでしょうね、努力されてるんだと思いますよ、確かに。最初なんかはいろいろな専門的に農産物を販売している事業者から取ったり、若い子たちに対する努力もされてるんだけど、なんかサンプル数が、要するに民意があまり盛り上がってないという反映のかなという思いと併せて、地域の格差、山陽、熊山地域の方たちは大変期待値が高いけど、やっぱり赤坂、吉井の方たちは他人事ということについて執行部側がそれを受け止めていただくことが私は必要だと思うんですけど、そういう理解をされてないと思っていいんですか。理解していただいていると思っていいんですか、そこだけ最後に聞きたい。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本総合政策部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） アンケートの数につきまして、例えば無作為抽出の1,000人で回収率が1月15日の時点で337人ということでございますが、大体こういった類いの調査についての回収率は3割から4割程度というのが一般的でございますので、想定範囲内の回収率かなと思っております。ただ1点、今おっしゃられた中でいうと、広報でのアンケート調査、これが23票ということなので、ちょっとここがもう少し伸びてほしかったなというところでは、私たちの努力が少し足りなかったのかなということは反省しております。

地域格差ということでは、アンケートの結果と申しますか回収の結果からいって、地域格差があるというふうには私としては捉えておりません。

以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

今のことについてもこのあとの協議事項の中にちょっと入ってくるんですが、委員の皆さんの中からこういうことについて議論したらどうかというのが出ておまして、それについて協議をする予定にしております。その中で、今大変議員間でしっかり討議をした中でまとめて、議会の中の委員会として執行部に意見を申し上げるというようなことが大切だということもこの間勉強しておりますので、できたら次の協議事項の中で、そのことも盛り込んだ形で皆さんと

御協議をさせていただいて、よりよいまちづくりなるようにということで進めさせていただければと思いますので、原田委員も、それから執行部も、そのように御理解をいただいたらありがたいと思うんですが、よろしいですかね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それじゃあ、他にございませんでしょうか。

○委員（大口浩志君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 14ページの中でちょっと気になったのが、20歳代、30歳代が特にないが1番に来て、50歳代、60歳代も特にないがあるんですが、これをどのように見るのか、中間報告いうことでしたので、コンサルのプロの目線でこれをどういう視点で見ればいいのかということより詳しくコンサルの方々ともすり合わせをしていただいて、今後の報告の中に入れて。この特にないがちょっと個人的に気になったんで、20歳代、30歳代が1番に来るので、その辺を今後についてお願いをしたいんですけど、いかがでしょうか。現状での受け止めがもしあればおっしゃってください。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本総合政策部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 大変貴重な御意見をいただきましてありがとうございます。

確かに、この特にないという意見がかなり多くの割合を占めております。今日のデータとすれば単独での回答の割合ということでございますので、この特にないというところを答えられた方がほかの問いに対してどういうふうに答えられているかということも併せて検証させていただきたいと思っております。今大口委員おっしゃられたように、コンサルタントはそのあたりの専門の知識も有しておられると思いますので、そこも併せて今後の検証に生かしていきたいと考えます。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他に。

安藤委員。

○委員（安藤利博君） 今の大口委員に関連するんですけど、その特にないというのが出てくるんですけど、このアンケートの前に、これも道の駅を前提にしたアンケートですよ。その前に、だから設問として道の駅が必要だと思いますか、必要、やや必要、どちらでもいい、やや要らない、要らない、5つのよくありますよね、それを持って行って、要らないという部類の人の意見がどうして必要じゃないかということ吸い上げないと、全員が全員要ると思って

ないと思うんです。特に、ここで特にないという層はその真ん中のどちらでもいいグループだと思うんですけど、そうじゃなくて、必要じゃないと思っているグループがどういう理由で必要でないと思っているか、その辺を捉えて、そうじゃない、要るんですよという説明をしていかないと、そっちの意見の人を切り捨てるような格好になると思うんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本総合政策部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 安藤委員の御質問に対して満額回答になるかどうか分かりませんが、自由意見等の中には、道の駅は必要ないですという御意見が確かに散見されます。ただ、割合として多いかと言われると、さほどたくさんあるというわけではありませんが、おっしゃられるように、自由意見で書くところですので、本当にマルかバツかという問い方はしてませんので、今のお答えに十分かどうか分かりませんが、いずれにしましてもコンサルタントとこの調査の結果についての分析は慎重にさせていただきたいと考えております。

以上です。

○委員（安藤利博君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 安藤委員。

○委員（安藤利博君） 同じことですけど、以前佐藤委員も、市民の必要じゃないという声もあるとおっしゃっているんですけど、それがどのくらいのウエートであるのか、やっぱり把握しておく必要があると思うんですよ。でもやるよと、市としてはやりたいよということの説明を、やっぱりそういった層にもしていく必要があると思うんで、今さらアンケートをやり直せというわけにはいきませんが、その辺を踏まえて事後の検討をお願いしたいと思います。

○委員長（金谷文則君） 他にございますか。

治徳委員。

○委員（治徳義明君） 今回市民アンケートということですけども、ちょっと確認ですけども、恐らくここに書いてますけども、青空市場とかいろいろな事業者に対するアンケートというのは今後どうされるのでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本総合政策部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） これと同時並行で、特に市内の事業者、青空の直売所等も含めて、事業者に対してもアンケートを今実施しているところでございます。併せて農業事業者、いわゆる農家の方につきましてもアンケートを実施することにしてお

ります。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

佐藤委員。

○委員（佐藤 武君） ニーズ調査それからアンケートを含めて5日間で866件ということで、本当にたくさんの件数が集まったなと私は理解したんですが、そうした中で、説明の中でコンセプトについてもるる説明がありました。

それから、設問の在り方だろうと思うんですが、農産物の販売とかそういう設問で、最終のイメージではないと思うんですが、この道の駅、本当にああこういう感じだなと思って、その赤磐市としての特徴は何だろうかなど見たんですね。四国へ当委員会が視察に行ったときに、ヘリポートでしたか防災倉庫、いろんなものがあって、その防災に向けた特徴を持たせた道の駅というものを見させていただいたんですが、このイメージ図を見る限りでは、赤磐市としてこれが特徴かなというのが何もありませんけれども、そのあたりについて、何かこれから出していくというお考えとかはあるんでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本総合政策部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） この利用者のアンケートについてはおおむねこのような内容ではございますが、自由意見等にも多く意見を書いてくださってる方もおられます。それから、これから中学生、高校生にもワークショップ等で意見を聞かせていただくところですし、それから今申し上げました事業者にもアンケートをさせていただきますので、利用者のニーズとそれから事業者側から見た提供側、供給側というんですかね、そういったものを組み合わせて、何を特徴としてつくり上げていけるのかというのは分析していきたいと思えます。

もちろん当委員会でも、議員全員入っていただいていたので、市としての特徴はこうあるべきじゃないかという御意見もぜひ出していただけたら、大変執行部としては助かります。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他にございませんか。

○委員（保田 守君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 保田委員。

○委員（保田 守君） 公共ゾーンというイメージの部分で、これはイメージだからこれから変わっていくと思うんですけど、まあこれだけ広がったら、これを県がやってくれるというト

イレが中心部分にあって、あと2か所ぐらいそんな大きいトイレじゃないけど要ると思うんです。

それと、駐車場、簡単にこんな駐車場を描いておられるんです。私がよく道の駅を利用するバイク仲間やこうと行ったら、どこにも割と専用の駐車場がなくて、区別がつきにくくて困ることが多いんです。そこら辺をバイクがきちんと並ぶような駐車場があればと思います。

それから1つ聞きたいんですけど、この調整池というのは防災のための調整池ですか。これはスペース的に空いたから、ここへ調整池を、景観的なものか防災のものなのか、ちょっとその辺をお聞きしたいなと思ってます。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋建設事業部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） まず、トイレにつきましては、これは県が今回駐車場、トイレをやるというのは道路管理者として、県道を走る人が休まれるときに必要だからということで県がここはやりましょうということで、今そういう調整になってます。それで、さらにトイレが要るんじゃないかというところについては、四国で視察されたところも、あそこもトイレが2つあったと思うんですが、あれも道路管理者がやる分と後は地域振興施設として要るものというところをちょっと分けて、結構今は2つ造られるパターンも多いので、そこは今後検討していくところになるかと思います。

あと、駐車場につきましては、おっしゃられるように二輪専用とか、あと身障者の枠とか、そういう細かいところは今後駐車場の設計というものをやりますので、その中でしっかり考えていくようになると思います。

あと、調整池については、これはもう防災用にここに降った雨を処理するためのものということ、これも計算がありますのでそれに沿って大きさを、これはちょっとまだラフなイメージですけど、もうちょっとしっかりとした雨量計から導き出していくようになります。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他にございませんか。

永徳委員。

○委員（永徳省二君） 20ページの左上にありますグリーンのコート、これが具体的に何のコートなのか、その左上にあります公園らしきものですが、これは具体的に何なのか教えてください。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本総合政策部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） これにつきましては、このイメージそのものが立地適正化計画を出していく中での想定されるイメージ図でございます。先ほどからお話をさせていただいておりますように、今行っているアンケート調査等によって中に盛り込んでいくものというのは決まってくるので、これが完成品というわけではありません。ただ、御質問に対してお答えをしますと、この左隅の緑色のコートはフットサルコート、それからその左隣、隅にありますのがスケートボード場をイメージして作っております。ただ、仮に入れたものでございますので、これが完成するというものではございません。

以上です。

○委員（永徳省二君） ありがとうございます。

○委員長（金谷文則君） 他にございませんか。

○委員（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 治徳委員が今後の市民だけじゃなくて事業者、それから農協、商工会ということも言われたんですが、農協や商工会というのはアンケートだけでなく、中高生がワークショップするように、商工会、農協の関わりが大分あると思うんです、観光と、それから農産物と。やっぱりワークショップというか、そういう形でしっかり話し合いをしていただきたいなど、ただそのアンケートだけでなく。それを要望したいと思うんですよ。やっぱりそれがまちづくりの結構中心的なことにもなりますので、それをお願いしたい。

それから、このアンケート、私も青空市へ行ったときにしたんですよ。それはアルバイトの人が来てくださいというて、もう短期間に読んでくれるから、そのときにちゃんと考える時間の間にばっばとマルするような形だから、ざっとしたアンケートにはなるのかなと、時間をじっくり取ってどうかというところまでのマルはできないわね、ああいうときのアンケートはね。だけど、自由意見のところ結構意見も書かれてたり、大体共通的な意見が出てくるのかなと思います。

ちょっと商工会や農協のその辺の話し合い、その辺の保証ができますでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本総合政策部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 今回委託をさせていただいてる業務の手順としまして、まずはアンケート調査、これは利用者と事業者へのアンケート調査です。これをフィックスさせた、もちろん今度やる中高生のワークショップなんかもその一つですが、そういうフィックスさせたもので概略的なイメージをつくります。そのイメージを持って、次の段階として、今おっしゃられるように、関係のより深いと思われる事業者、この中には今おっしゃられた農協等も含まれてくると思いますが、そういったところへは今度は個別にヒアリン

グをかけることになります。これでもって、さらにこのイメージをブラッシュアップしていくという段階を踏んでいきたいと考えております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他にございませんか。

安藤委員。

○委員（安藤利博君） その絵のちょうど真ん中のところに、バスターミナルだと思うんですけど、市民バスと路線バスとあるんですけど、その絵で5台駐車スペースがあるように描かれてるんですけど、市民バスでいくとルートをもたまたま今度変えるわけですね。それと、この路線バスというのは宇野バスを想定されてるのでしょうか。

それと、これは市民からも問合せがあるんですけど、高速バスの駐車場がここに来るんでしよう、この前ちょっと説明があったと思うんですけど、以後変更があったのかどうか、その辺をちょっと教えてください。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部長（倉本貴博君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 倉本総合政策部長。

○総合政策部長（倉本貴博君） この道の駅を含む公共ゾーンを整備するに当たって、県とも協議を重ねているんですけども、まずここは交通の結節点たる機能を有するというのがまず一つ大前提、大きな肝となっております。その中で、バスは何台ブースが要するのか、高速バスが来るのかとか、そういったことも併せて検討しておりますが、当然ながらこの付近を通りますのは宇野バスですので、今後宇野バスとも協議をしてみたいし、現在高速バスを運行しております両備バスなどとも協議をしてみたいと考えております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

○委員（安藤利博君） はい。

○委員長（金谷文則君） 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それでは、ちょっと今のお話を、皆さんの御意見の中を見てもと、それぞれ委員なりにいろんな考えがあったり、市民から聞いている声があると思えました。

次回の委員会について、いろいろ集中的にやっぱり話をしていく、特に委員の中で、自分たちがどういうことを思っているかということについて今度は協議して、この委員会それから議会としてこういうことについて執行部どうでしょうかということを一編委員会でもとめて、議会の意見として執行部へ出して、こういうことについてどうかとしたほうが、個人個人の意見じゃなくある程度総意をまとめていったほうがいいかと思っておりますので、できたら次回はそういうことに

ついてを皆さんとお話をして、今考えられて意見を言われた委員の皆さんも、様式は問いませんので一遍出していただいて、この委員会宛てに意見を出していただいて、3月に次の会議は開かなければいけないとは思っておりますので、2月中ぐらいにそういう意見を出していただいたら、それについて議員の中で協議をして、一つにまとめてこれを執行部へ言わなきゃいけないのかどうかというところをまとめて、議会、委員会の意見としてやりたいと思いますので、そのように御協力をいただけたらと思います。

もう一つは、このアンケートは執行部でされたわけですが、議員としてもこういうことについてやっぱり聞いとくべきじゃないのかというのがあろうかと思っておりますので、そういうことも併せて、もう一度何回やってもいいかと思っておりますので、アンケートの結果等についてしっかり市民の意見を反映してもらわなきゃいけないし、今回のアンケート結果についても、それは反映するためのアンケート結果の分析だと思っておりますので、執行部にもそのような考えの下にお願いをしたいので、この中で出てきてないのは、具体的にこの道の駅に幾らぐらいお金を使うのかなというようなアンケートはしなかったんでしょうかね。そういうこともちょっと聞いてみたいと思いますので、次回、そういうふうにみんなで会議をさせていただいて、意見を執行部に出したいと思っておりますので、御協力をよろしいでしょうか。

原田委員。

○委員（原田素代君） 今は公共ゾーンですよね。実質的には生活利便ゾーンと産業振興にぎわいゾーンがありまして、もう漏れ伝わるわけですね。どういう会社が来るとか。要するに市はそれなりの計画が進んでるんだと思うんですけど、そもそもその2つのゾーンもきちんというコンセプトで作りたいとか、説明がやっぱり公共ゾーンだけ中抜きしても全体像の中の位置づけとして、今日語られてない2つのゾーンについての説明もお願いします。

○委員長（金谷文則君） だから、それで議員として個人の御意見の集まりで、皆さんで議会として、委員会でそれをもう少しこういうふうの説明してほしいというのをまとめていきたい。個々の意見で言ってるとなかなか答弁するのも大変かと思っておりますので、皆さんの総意だとか、大多数の議員がそう思ってるんで、これについてやってほしいとかという形で出していきたい、そのほうがいいと思っておりますので、今原田委員の言われたことも、皆さんと諮った中でこういうふうにしてほしいというのを要望していけるようにしたいと思っておりますので、御理解いただけたらと思います。

よろしいでしょうか。

○委員（原田素代君） はい。

○委員長（金谷文則君） それでは、協議事項の1番目につきましては、以上で質疑を終了したいと思います。

続きまして、協議事項の2番目、次期赤磐市総合計画の策定についてを執行部から説明願います。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 山崎政策推進課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 別添の資料、1枚物になります。そちらをお開きください。

次期赤磐市総合計画の策定について御説明させていただきます。

現行の第2次赤磐市総合計画の計画期間につきましては、平成27年から令和6年までの期間となっております。令和6年度をもちましてこちらの計画が満了することに伴いまして、第3次赤磐市総合計画（仮称）を策定する予定でございます。

計画の期間につきましては、総合計画の中で、基本構想につきましては8年間、令和7年から令和14年、それから基本計画につきましては前期を4年、後期を4年ということで、中間年に見直しを行ってまいりたいと思っております。

なお、策定スケジュールにつきましては、令和6年3月、総合計画策定支援業務受託者の選考を行ってまいりたいと思っております。先般の議会で債務負担行為を議決していただいておりますので、まずは支援業務の受託者を選んでいきたいと考えております。

令和6年度に入りますと、市民との対話、ワークショップ等によりまして意見聴取を行ってまいりたいと思っております。以降複数回開催をしていきたいと思っております。なお、本年度中におきましても、特に若い方と意見交換をする場を3月末に予定しております。こちら財務省のスキームを使わせていただいで実施する予定にしております。

令和6年夏頃からは、赤磐市のまちづくり審議会を複数回開催させていただきたいと思っております。秋頃には基本構想の素案を作成させていただき、令和7年の初め頃には基本計画の案をつくっていききたいと考えております。こちら令和7年度当初頃と書いておりますが、令和6年度の末から令和7年度にかけてパブリックコメントを実施させていただき、令和7年6月の議会で上程を予定させていただいております。なお、策定をさせていただいております間には、総務常任委員会をはじめ各常任委員会及びまちづくり調査特別委員会におきましても、必要に応じまして経過説明、計画案、内容の審議等を行っていただきたいと考えております。

簡単ではございますが、以上でございます。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

執行部の説明が終わりました。

ただいまの説明につきまして質疑はございませんか。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 一つだけ分からないのは、これが令和7年6月以降にできるということですが、総合計画が。それと、今現在進行している立地適正化計画、これは当然連動してると理解していいんですよね。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部長（倉本貴博君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 倉本総合政策部長。

○総合政策部長（倉本貴博君） 執行部といたしましては、この総合計画を市における最上位の計画だと認識しております。そのほか各市で定めます計画につきましては、立地適正化計画をはじめ、当然ながら総合計画とは整合性を取りながら進めていくものと考えております。

以上でございます。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

○委員（原田素代君） いいです。

○委員長（金谷文則君） 他にございませんでしょうか。

○委員（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 何か財務省の資金を使っていろいろされるんですけど、市民との対話をワークショップで以降複数回やるという、どういう形で、結構地域ごとにやるとか、ちょっとその辺はどういうふうに考えておられますか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 山崎政策推進課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） まだ何回するかとか、どういった方とするかというところの細かいところは今後支援事業者とも相談させていただきながらとは考えておりますが、様々な地域、それからいろんな年代の方、子育て世代ですとか、高齢者の方々とか、そういういろんな世代の方がおられますので、そういう方々を対象にいろんな形で開催をしていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） ないようでございますので、協議事項2番目につきましての質疑はこれで終了したいと思います。

続きまして、協議事項3番目、その他に入ります。

まず昨年度、さっき私がちょっとフライングしてお話をさせていただきましたが、原田委員と安藤委員からの意見書を要望書のような形で出していただいたものがあります。それにつきましてはタブレットの中に格納しておりますので、それを再度よく御覧いただいて、できれば次回の委員会のときに、まず原田委員、安藤委員からの簡単な説明をいただいて、皆さんでそ

の内容について御協議をいただきたい。あわせて、先ほど申し上げましたように、今日出ましたそれぞれ委員の皆さんからの御意見のようなものがたくさんありましたので、個々にまだおっしゃっておられない方も御意見がありましたら、2月中に形態は問いませんので、御意見等、こういうことについて協議しようということがありましたら出していただいて、まず優先としては原田委員、安藤委員の出していただいたものについて協議をして、その後出てきましたものについて協議をして、委員会としての執行部に向けて出せるものをまとめていきたいと思っておりますので、そのような流れで次の会議をさせていただくということで御承認いただけるかどうかをお諮りしたいと思います。いかがでございましょうか。

○委員（原田素代君） いいと思いますが、ちょっと一つだけ確認。

今、いろいろ出してくださいとおっしゃってありましたよね、最初に。それは、次のときまでに、2人出ますけどそれ以外の分も次のときまでに提出したほうがいいんですか。

○委員長（金谷文則君） だから、今御説明をそのことについて申し上げました。

優先してお二人のことをやっています。その後出てきたものを順次協議をしていきたいと思っておりますと申し上げると、それまで2月中にお出しいただければと……。

○委員（原田素代君） 出せばいいわけですね。

○委員長（金谷文則君） というふうに考えておりますので、お願いいたします。

○委員（原田素代君） はい、承知しました。

○委員（佐藤 武君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤 武君） 調査項目でいろいろ御意見が出ているのかなと、その資料によるとそういうふう感じられるんですが、基本的には、このまちづくり調査特別委員会というのは調査項目も公共ゾーンの調査、それから旧4町の調査ということで議会で議決をしているはずで。だから、その項目以外ということになると、当然その議会の議決ということも含めて皆さんの御了解が必要になってくるのかなと思っておりますけれども、そのあたりも含めて、次回の委員会で調整をお願いできればなと私は思いますのでよろしく申し上げます。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

他にございせんか。

下山委員。

○委員（下山哲司君） 今資料を原田委員と安藤委員のを見たんじゃけど、安藤委員のは受付印があったり、提出者の判こがついてあったりするんじゃけど、原田委員のはもう内容だけが載っとなんじゃけど。

○委員長（金谷文則君） それにつきましては、改めて募集をする前に意見を出していただいたものでございまして、ずっと長くそのままになっております。ですから、正式にこういうふうに出してくださいという前に出されたものなのでそのような形になっておりますので、御理

解をいただきたいと思います。

○委員（下山哲司君） はい。

○委員長（金谷文則君） ほかによろしいでしょうか。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） こうやって個々で出すんじゃないしに、議員だけで議員間討議をやって、その中で出た意見をまとめた方法はどんなでしょうか。

○委員長（金谷文則君） そのような形をやろうと思って、次回、今皆さんの意見を出しといていただいたもので事前に準備をして、議員間の中でまとめてやっていきたいと考えたから、ちょっとお話を申し上げておりますんで、議員間討議に近い形になろうかと思います。その前に、佐藤委員が言われたように、我々ができる範囲はどこなのかということをもう一遍確定した中でやっていく、必要に応じてまた議会の中で諮らなきゃいけないことがあればそれをしていくということになるのかと思いますけども、たちまち皆さんの御意見を皆さんで討議していただきたいと考えております。

よろしいでしょうか。

下山委員。

○委員（下山哲司君） この前策定した委員会の時点で、私は別に形が少し変わろうと調査のことに関しては同じ目的なんで、そういう部分は問題ないんじゃないかと思うんですが、それよりは、執行部をのけて議員だけが話をする委員会を事前にやっていただいたほうが、スムーズにみんなの意見がまとめられるんじゃないかと思うんですが。ですから、正式に委員会ではなくて委員会のための準備の日を1日取るとかというのが……。

○委員長（金谷文則君） そのことも考えておまして、委員会の中で執行部を呼ばない委員会というのもありかと思ひまして、次回協議はいたしますけど、方向的には今下山委員がおっしゃられたような方向がいいのかなと思って、まだ正式な協議はしておりませんが考えておりますので、その辺が決まりましたらまた皆さんに御連絡をさせていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） 他にございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） ないようでございますので、協議事項3番目が終了。

その他もよろしいですね、執行部。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それでは、そのほかに委員、または執行部から何かございましたら発言をお願いします。

まず、光成副委員長から御意見がありますので、ひとつお願いいたします。

○副委員長（光成良充君） ちょっと後で意見を言わせてもらおうと思っただけなんですけど、もう全部皆さんが出された内容とかぶってしまうんですけども、さっき話したじゃねえかって言わんようにしてくださいね。

本日、執行部から道の駅のある程度の指針が出されて、これからはこの委員会の本来の持つもう一つの目的でございました、赤坂、吉井、熊山地域、この部分についてまちづくり、この議論を進めていきたいと考えておりまして、本日意見を言わせてもらおうと思っておりました。

さきの議員研修の中でも、委員会での情報共有とか意思の統一、議論の活性化、これを図ることによって重みが増すという話もございましたし、先ほど委員長からもそういう話をされておりましたので、今後こういう形の議論を進めると先ほどもその話がありましたので、多分委員の皆さんそういうお考えを持たれていると思うんですけども、皆さんは先ほどの話を共有してこれから進めていくという考えでよろしいのかなど。何か意見があればいただきたいと思うんですけども、そういう形で行かせてもらおうと私は思っております。意見としてひとつ言わせていただきたいと思っております。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

先ほど私も申し上げたようなこと、それから下山委員からも言われたようなことが光成副委員長からも改めてあった、そういう方向で進ませていただきたいと思っておりますので、よろしいですかね。皆さん御了解をいただきたいと思っております。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それでは、他にございませんでしょうか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それでは、ありがとうございます。

その他はないようでございますので、以上をもちましてまちづくり調査特別委員会を閉会としたいと思います。

午前10時54分 閉会